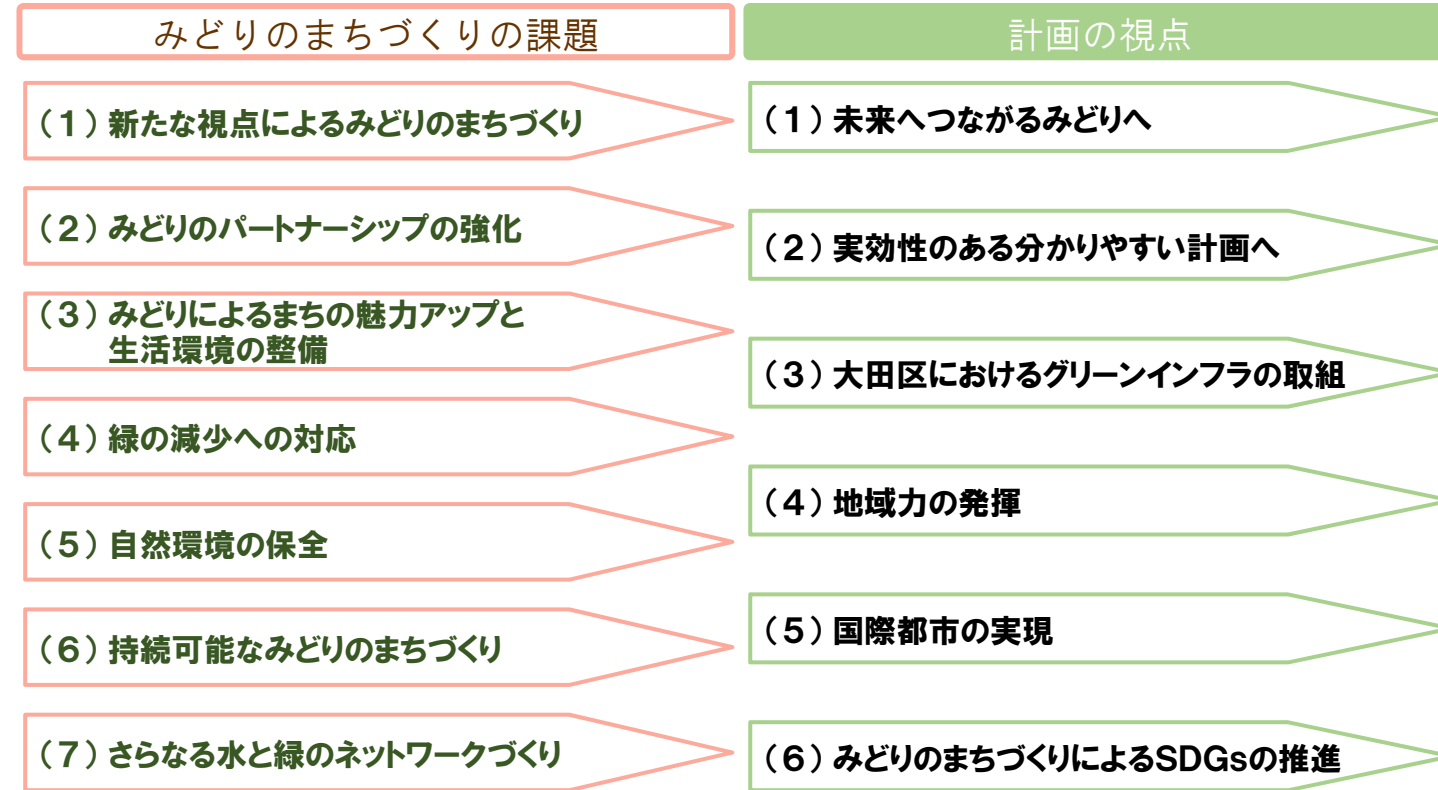
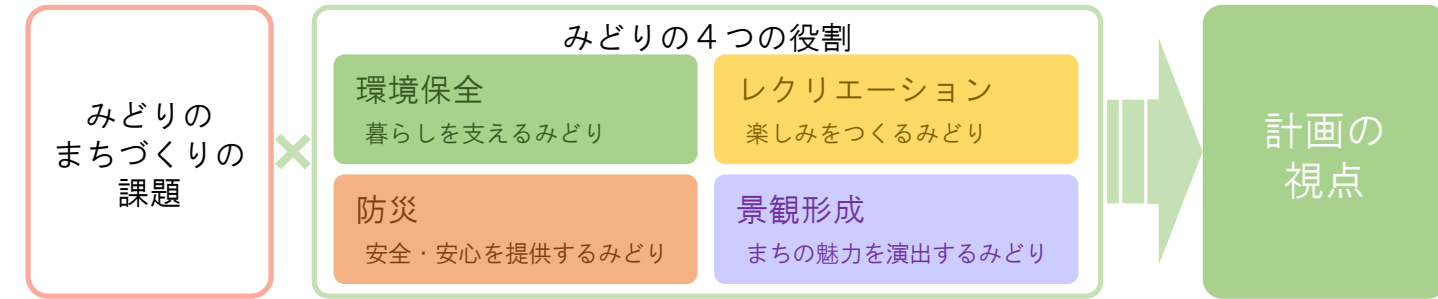


みどりのまちづくりの課題と計画の視点



全体目標

2030年には、区民の7割が緑の多さに満足していることを目指します

指標	I 期計画実績		II 期計画目標	
	2021年 (令和3年)		2030年 (令和12年)	
緑の多さの満足度	62.1%		70%	

調査方法 「大田区政に関する世論調査」「区の施策検証等に向けた区民意識調査」

2030年には、緑被率がI 期計画実績に比べて3.18%増加していることを目指します

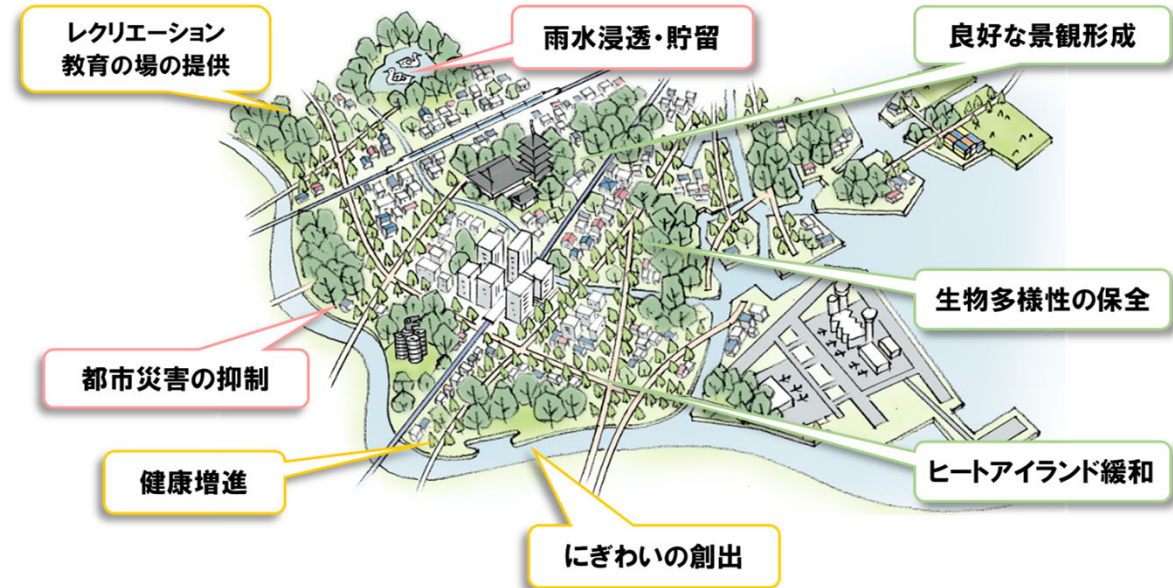
指標	I 期計画実績		II 期計画目標	
	2018年 (平成30年)		2030年 (令和12年)	
緑被率	18.32%		21.5%	

調査方法 「大田区みどりの実態調査」(調査は概ね10年ごとに実施)

重点的な取組の推進

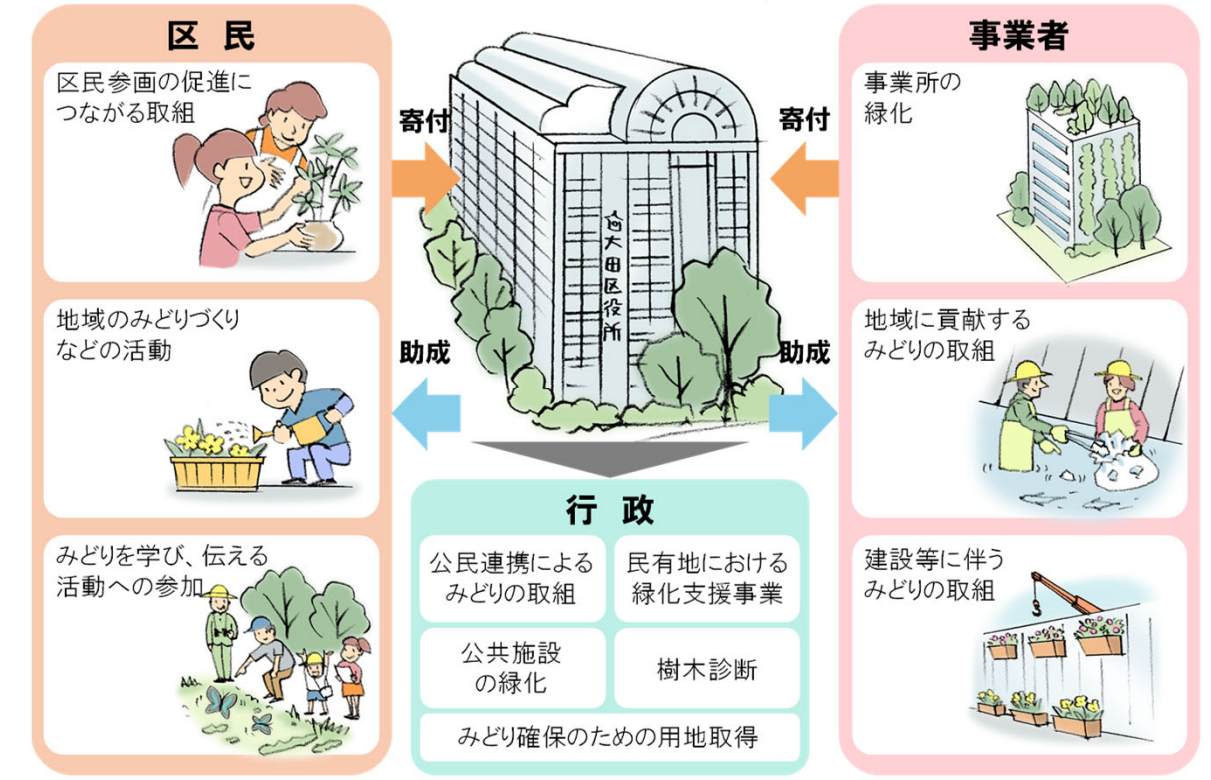
(1) (仮称) 大田区グリーンインフラ事業計画の策定・推進

大田区では、グリーンインフラの取組方針として、環境、防災・減災及び地域振興の3つの視点でまちづくりの動向を把握し、地域課題に対する解決手法として導入を検討します。また、事業計画の策定にあたって、地域特性や課題を踏まえた目標・指標を設定し、課題解決に向けた検証などを実施することで、計画的・効果的にみどりのまちづくりを推進してまいります。



(2) (仮称) グリーン基金の創設・運用

グリーンプランの将来像を実現するためには、みどりの取組を計画的・継続的に推進していくための財源確保が必要不可欠となります。そこで、グリーンプランで示す「(仮称)グリーン基金の創設・運用」を重点的に取り組み、基金の活動に賛同いただいた区民からの寄附により運用し、みどりの取組を加速させていきます。



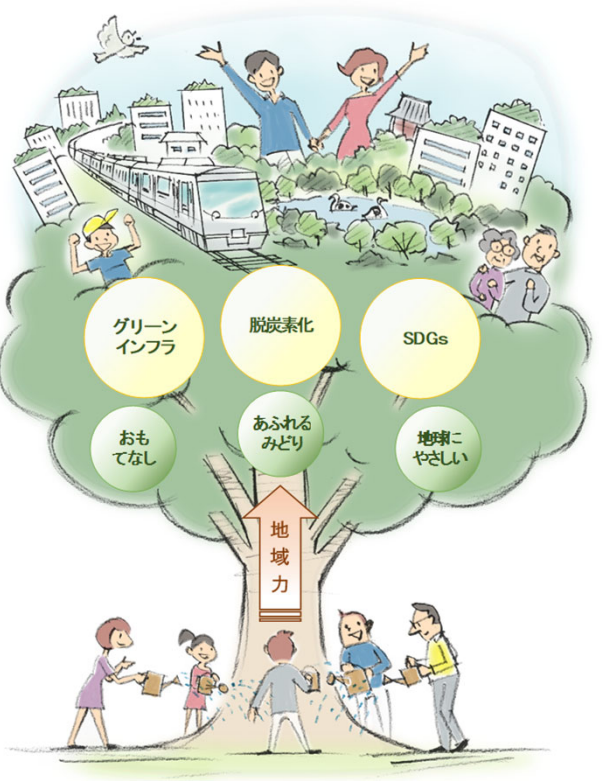
緑の基本計画とは

「大田区緑の基本計画グリーンプランおおた(以下、「グリーンプラン」という)」は、都市緑地法第4条に基づき定められた、緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画で、公園・緑地や農地などの適正な保全、緑化の推進及び都市公園・緑地の整備・管理など、緑豊かで快適な都市を形成するための取組方針を示しています。また、みどりのまちづくり全般における将来のあるべき姿を区民、事業者及び大田区の協働によって実現することを目指す計画です。

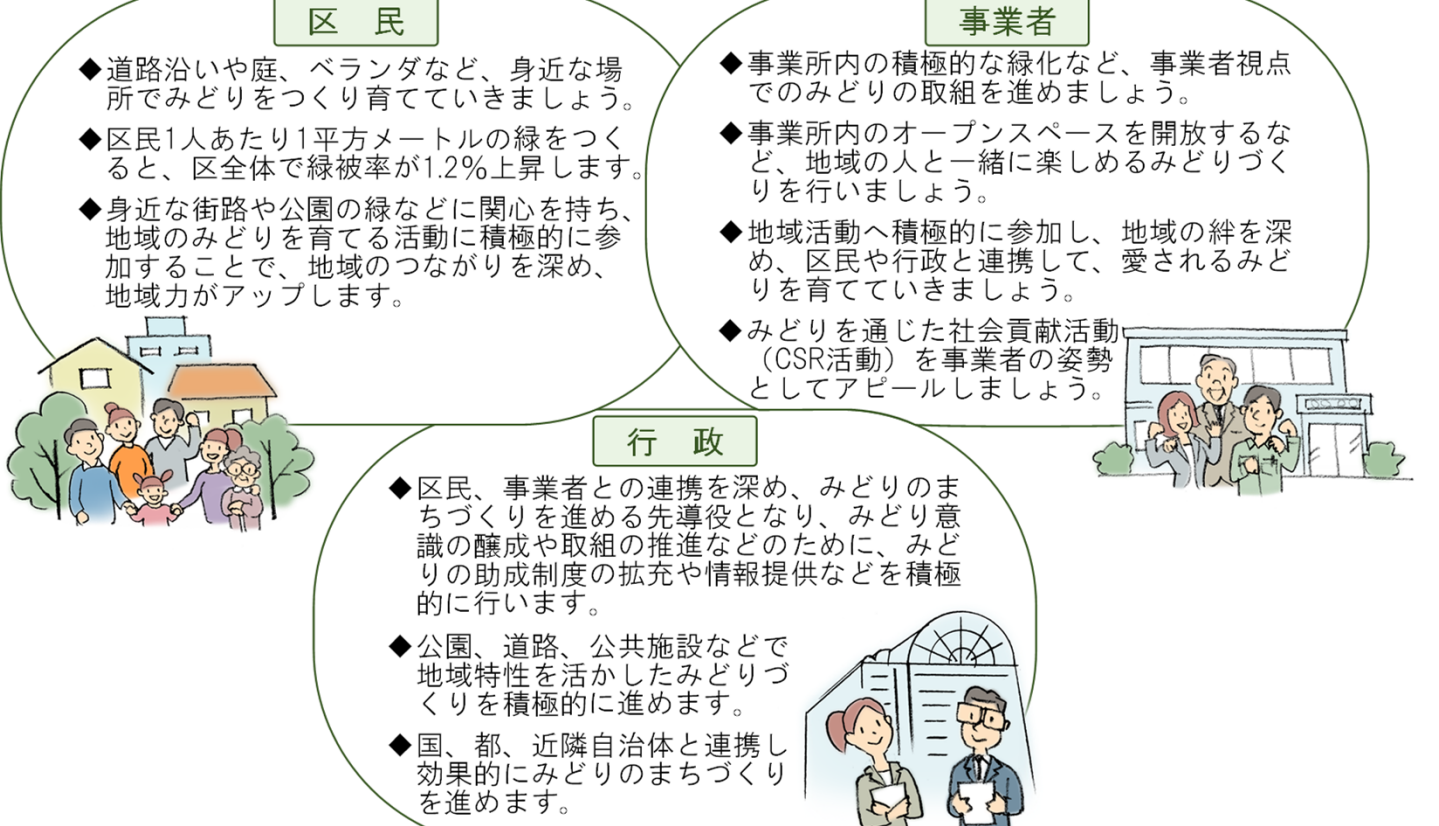
改定について

今回の計画改定は、グリーンプランが平成23年3月に策定されてから12年が経過し、I 期計画(平成23年度から令和4年度)からII 期計画(令和5年度から令和12年度)へ移行するものです。グリーンプランで示すみどりの取組を見直すとともに、法条例の改正内容の反映、社会情勢の変化及び関連計画と整合を図り、4つのポイントを軸に計画改定を行いました。

- 改定のポイント
- ① みどりの役割ごとの機能・効果を明らかにし、目指すみどりのまちの姿を示す
 - ② みどりの確保と整備の方向性を示した“おおた”のみどり方針を定める
 - ③ 自然環境を活用したグリーンインフラによる課題解決を検討する
 - ④ 新たに樹木・街路樹の維持管理に関する方針を示す



各主体の役割



基本方針 I 地域力を活かし、笑顔につながるみどりをみんなで育てます

地域のみんなの
みどりづくり

- ① まちの個性を活かしたひとり1平方メートルのみどりづくり
- ② まちのみどりづくり支援

みどりを育み
楽しめるきっかけ
づくり

- ① みどりを知りみどりに親しむ機会づくり
- ② 未来を支える子どもたちへのみどりの伝承
- ③ みどりを楽しめる情報発信

みどりを支える
仕組みづくり

- ① みどりに関わる区民活動への支援
- ② みどりの活動を支える人材育成
- ③ 地域の拠点を活かしたみんなのみどりづくり
- ④ 多様な主体との連携
- ⑤ みどりのまちづくりの基本的な仕組みづくり

2030年には、大田区全体にみどりの活動が広がっていることを目指します

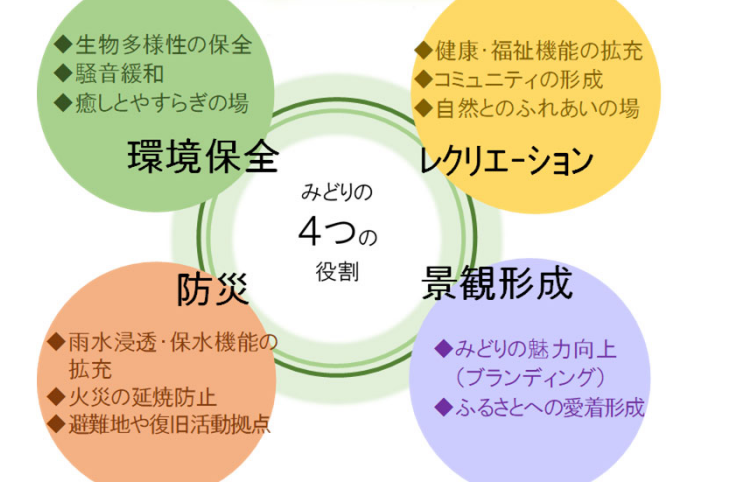
指標	I 期計画実績	II 期計画目標
	2020年 (令和2年)	2030年 (令和12年)
みどりに関わる年間活動数*	198回	215回

* 基本方針 I に関する区民が参加する取組を活動数とする
なお、「ふれあいパーク活動」及び「おおた花街道」については、活動対象となる公園又は道路などにおける活動団体数を活動数とする

調査方法 グリーンプランおおたの進捗管理より



ここら豊かに住み続けられる「みどりあふれるまち」



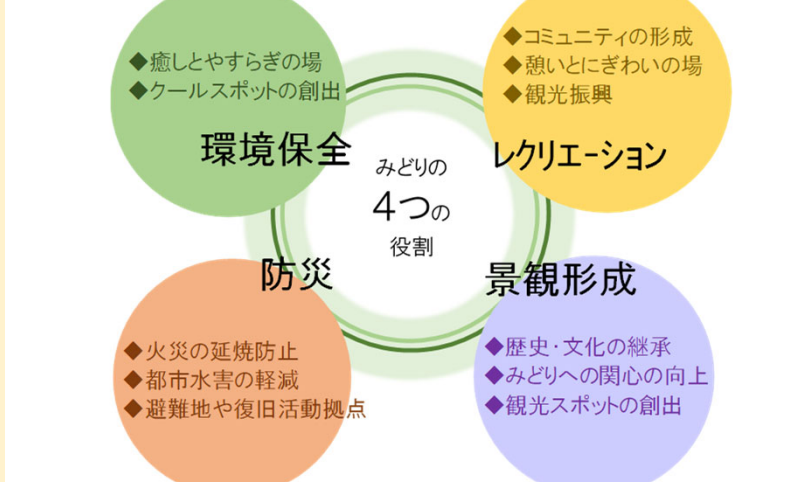
- ◆みどりがあふれる公園は、健康づくりや子どもの遊び場となっているとともに、地域コミュニティの場としてにぎわっています。
- ◆地域のみどりあふれる空間を活かした居場所づくりにより、やすらぎと癒しのサードプレイスとなっています。
- ◆地域力を活かした多様な主体が連携し、人々は花植えやみどりのボランティア活動を通じて充実した日々を送っています。

将来像

- ◆ここら豊かに住み続けられる「みどりあふれるまち」
- ◆多様なみどりが広がる世界に向けた「おもてなしのまち」
- ◆みどりがつながる「地球にやさしいまち」



多様なみどりが広がる世界に向けた「おもてなしのまち」



- ◆区民・事業者・大田区が連携し、まちなかのみどりを未来に引き継ぐ資源として活かすことで、地域の魅力のひとつとして発信します。
- ◆みどりを通じた地域コミュニティが充実し、花植えや自然観察などの知識や意識が醸成され、おもてなしのみどりが観光客を迎えます。
- ◆地域の歴史・文化がみどりと共に継承され、大田区を代表する魅力的な景観が形成されます。

基本方針 III 大田区ならではの誇れる多様なみどりを未来へ引き継ぎます

貴重なみどりの
保全と魅力ア
ップ

- ① 自然環境拠点緑地の保全・再生
- ② 貴重な民有緑地の保全
- ③ 樹木・緑地の保護
- ④ 樹木の維持管理・更新
- ⑤ みどりの保全を支える仕組みづくり

生き物が息づく
多様な自然環境
の保全と再生

- ① 河川・池沼の保全・再生
- ② 海辺環境の保全・再生
- ③ 健全な水環境の確保に向けた取組の推進
- ④ 水辺環境のネットワークづくり
- ⑤ 生物生息環境の保全
- ⑥ 自然環境の調査

美しい未来につ
ながるまちなみづ
くり

- ① 美しいまちなみ景観づくり
- ② 幹線道路・鉄道沿線の緑化推進
- ③ 地球に優しいみどりのまちづくり
- ④ 景観のみどり資源の保全と活用

2030年には、直径40cmを超える大木が大切に育てられ増えていることを目指します

指標	I 期計画実績	II 期計画目標
	2018年 (平成30年)	2030年 (令和12年)
直径40cm以上の樹木の 本数(公園・緑地、街路樹を除く)	8,531本	15,000本

調査方法 「大田区みどりの実態調査」より



基本方針 II 空からも見える骨太なみどりでたくさんの人々をもてなします

海辺のおもて
なしのみどりづくり

- ① 空港臨海部のみどりづくり

空から見える
みどりの骨格づくり

- ① みどりの拠点づくり
- ② 多摩川沿いのみどりづくり
- ③ 海辺のみどりづくり
- ④ 呑川沿いのみどりづくり
- ⑤ 崖線沿いのみどりづくり

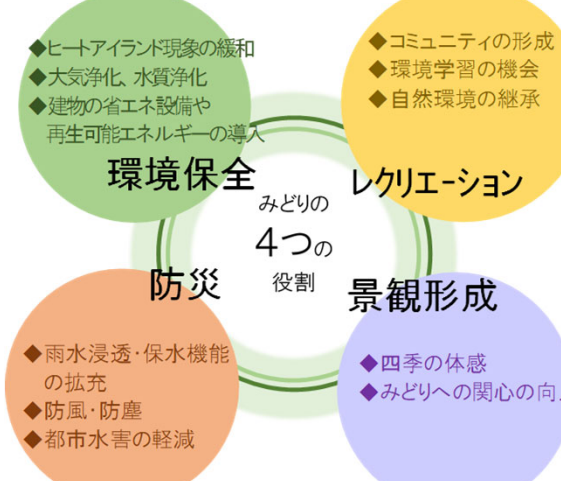
2030年には、空からの玄関口である空港臨海部のみどり豊かになっていることを目指します

指標	I 期計画実績	II 期計画目標
	2020年 (令和2年)	2030年 (令和12年)
空港臨海部埋立地での 新たな公園・緑地の整備量	8.4 ha	10 ha

調査方法 大田区都市基盤整備部事業概要「土木の現況」より



みどりがつながる「地球にやさしいまち」



- ◆公共施設の整備は積極的に緑化が進み、脱炭素化の実現に貢献しています。
- ◆みどりが保全・創出されることで、雨水対策などの機能が向上し、都市型水害を軽減しています。
- ◆公園・緑地などは、みどりの機能・効果を発揮するグリーンインフラとして、災害に強いまちをつくれます。
- ◆CO₂吸収源となるみどりを最大限活用し、持続可能なみどりのまちづくりを推進しています。

基本方針 IV 暮らしを支え、ここら豊かになるみどりを増やし、つなげます

みどりの拠点と
なる公園・緑地
づくり

- ① みどりあふれる公園・緑地の計画づくりと維持管理
- ② 地域に根ざした公園・緑地の整備
- ③ まちづくり事業と連携した公園・緑地の整備
- ④ 拠点公園・緑地の整備
- ⑤ 大規模公園・緑地の魅力アップ

暮らしの中のみ
どりの道づくり

- ① みどりの道路整備
- ② みどりの散策路整備
- ③ みどりの補助ネットワークづくり
- ④ 歴史と文化と自然の散策路づくり
- ⑤ みどりのスポットづくり

みどり豊かな公
共施設づくり

- ① 公共施設の緑化等推進
- ② 学校施設の緑化等推進

まちなみを彩る
みどりづくり

- ① 既存まちづくり制度の効果的な活用
- ② まちづくり事業との連携
- ③ 民間事業との連携

2030年には、すべての地域に身近な公園が配置されていることを目指します

指標	I 期計画実績	II 期計画目標
	2020年 (令和2年)	2030年 (令和12年)
暮らしを支える 身近な公園の充足率	97%	100%

調査方法 「大田区公園緑地等箇所図」より分析

- ◆250m(徒歩で約5分)以内に公園があるということを「身近な公園が充足している」として評価
- ◆空港臨海部地域を除いた内陸部での充足率

